

令和6年度 菊類 防除基準

No.1

J A庄内たがわ

令和6年1月1日時点の農薬登録情報を基に作成

ハモグリバエ類	マメハモグリバエ	アブラムシ類	ハダニ類	ナミハダニ	ミカンキイロアザミウマ	アザミウマ類	オオタバコガ	ヨトウムシ類	薬剤の系統 (または成分)	Rコード	薬剤名	規格	使用基準			薬剤特性					備考
													希釈倍数 又は 使用量	水100ℓ 当り薬剤量	使用回数	速効性	浸透移行性	浸達性	接触毒	食毒	
○						○	○	○	マクロライド系	6	アフーム乳剤	500ml	1000倍	100ml	5回以内	○	×	○	○	○	
	○						○			6	アニキ乳剤	250ml	1000倍	100ml	6回以内	○	×	○	○	○	
			○				○			6	アグリメック	500ml	500倍	200ml	5回以内	○	×	○	○	○	
○							○		ネオニコチノイド系	4A	ダントツ水溶剤	250g	2000倍	50g	4回以内 (合せて)	○	○	○	○	○	散布
	○	○					○			4A	ダントツ粒剤	3kg	2g/株	—		○	○	○	○	○	
	○	○								4A	スタークル粒剤	3kg	1g/株	—	1回	○	○	○	○	○	定植時、マハク'リ'は2g/株
○		○								4A	スタークル顆粒水溶剤	500g	2000~3000倍	33~50g	5回以内 (スタークル粒剤と合せて)	○	○	○	○	○	ハク'リ' I類、1000~2000倍、1ℓ/mかん注
		○				○				4A	アドマイヤーフロアブル	250ml	2000倍	50ml	5回以内 (合せて)	○	○	○	○	○	施設栽培
		○				○				4A	アドマイヤー1粒剤	3kg	3kg/10a	—		○	○	○	○	○	ア'ラ'類は2g/株(但し6kg/10aまで)
○					○					4A	アクタラ顆粒水溶剤	500g	2000倍	100g	6回以内	○	○	○	○	○	ミカ'バ'ア'ミ'は1000倍
		○				○				4A	モスピラン顆粒水溶剤	500g	2000倍	50g	5回以内	○	○	○	○	○	
		○			○					4A	ベストガード水溶剤	500g	1000倍	100g	4回以内	○	○	○	○	○	
		○				○			スルホキシミン	4C	トランスフォームフロアブル	250ml	2000倍	50ml	3回以内	○	○	○			
	○				○				IGR剤	15	カスケード乳剤	250ml	2000倍	50ml	3回以内	×	×	×	△	○	
	○									17	トリガード液剤	250ml	1000倍	100ml	4回以内	○	×	○	○	○	ハモグリバエに効果大
			○							10B	バロックフロアブル	500ml	2000倍	50ml	1回	×	×	×	○	○	
☆	○	○				○	○	○	有機リン系	1B	オルトラン水和剤	500g	1000倍	100g	5回以内 (合せて)	○	○	○	○	○	薬汚れ出るため、生育初期のみ
	○	○				○	○			1B	ジェイエース水溶剤	500g	1000倍	100g		○	○	○	○	○	薬汚れ出ないため、発雷以降も使用可
殺		○			○				カーバメート系	1A	ガゼット粒剤	3kg	9kg/10a	—	3回以内	○	○	○	○	○	ア'ラ'類は2g/株(但し18kg/10aまで)
虫		○							ピメトロジン	9B	チェス顆粒水和剤	100g	5000倍	20g	4回以内	×	○	○	×	○	アブラムシに効果大
		○	○		○				合成ピレスロイド系	3A	アーデント水和剤	100g	1000倍	100g	5回以内 (合せて)	○	×	×	○	○	生育初期使用
		○								3A	アーデントフロアブル	250ml	2000倍	50ml		○	×	×	○	○	
		○			○					3A	テルスターフロアブル	100ml	4000倍	25ml	3回以内	○	×	×	○	○	ミカ'バ'ア'ミ'は2000倍
剤			○						アセキノシル	20B	カネマイトフロアブル	500ml	1000~1500倍	66~100ml	1回	○	×	×	○	×	
○	○					○			MET I 剤	21A	ハチハチ乳剤	500ml	1000倍	100ml	4回以内 (合せて)	○	×	×	○	×	
					○					21A	ハチハチフロアブル	500ml	1000倍	100ml		○	×	×	○	×	
		○	○							21A	サンマイトフロアブル	500ml	1000倍	100ml	2回以内	○	×	○	○	○	
		○								21A	ダニトロンフロアブル	500ml	1000~2000倍	50~100ml	1回	○	×	○	○	△	
			○						環状ジエン有機塩素系	-	ペンタック水和剤	100g	1000倍	100g	—	×	×	×	○	×	
			○						β-ケトニトリル誘導体	25A	ダニサラバフロアブル	500ml	1000倍	100ml	2回以内	○	×	×	○	○	
			○							25A	スターマイトフロアブル	250ml	2000倍	50ml	1回	○	×	×	○	○	
			○						アシノナピル	33	ダニオーテフロアブル	250ml	2000倍	50ml	2回以内	○	×	×	○	○	
				○					ピフェナゼート	20D	マイトコーネフロアブル	500ml	1000倍	100ml	1回	○	×	×	○	○	開花前まで
			○		○		○	○	クロルフェナピル	13	コテツフロアブル	500ml	2000倍	50ml	2回以内	○	×	○	○	○	
○						○	○		スピノシン系	5	スピノエース顆粒水和剤	100g	5000倍	20g	2回以内	○	×	○	○	○	材'バ'は2500~5000倍
○						○	○			5	ディアナSC	100ml	2500~5000倍	20~40ml	2回以内	○	○	○	○	○	
			○			○	○		フルキサメタミド	30	グレーシア乳剤	250ml	2000倍	50ml	2回以内	○	○	○	△	○	
						○				30	プロフレアSC	250ml	2000倍	50ml	3回以内	○					
						○			ジアミド系	28	フェニックス顆粒水和剤	250g	2000倍	50g	4回以内	○	×	×	×	○	
					○	○				28	ヨーバルフロアブル	100ml	2500倍	20~40ml	3回以内	○	×	×	×	○	殺虫忌避効果抜群、材'バ'は2500~5000倍
						○			ピリダリル	UN	プレオフロアブル	500ml	1000倍	100ml	4回以内	○	×	×	○	○	

令和6年度 菊類 防除基準

No.2

JA庄内たがわ

令和6年1月1日時点の農薬登録情報を基に作成

	白さび病	うどんこ病	褐斑病	黒斑病	斑点病			薬剤の系統 (または成分)	R C A I C D	薬剤名	規格	使用基準			薬剤特性				備考	
												希釈倍数 又は 使用量	水100ℓ 当り薬剤量	使用回数	予防 効果	治療 効果	浸透 移行性	浸達性		
☆ 殺菌剤	○							ジチオカーバマイト系	予防	M03	ジマンダイセンフロアブル	500ml	500~800倍	125~200ml	8回以内	○	×	×	×	
	○	○	○	○	○			TPN	予防	M05	ダコニール1000	500ml	1000倍	100ml	6回以内	○	×	×	×	
	○	○						EBI剤	予防・治療	3	アンビルフロアブル	500ml	1000倍	100ml	7回以内	○	○	○	○	
	○						予防・治療		3	ラリー乳剤	100ml	3000倍	33ml	5回以内	○	○	○	○	薬害注意	
	○							ストロビルリン系	予防・治療	11	アミスター20フロアブル	250ml	2000倍	50ml	5回以内	○	○	○	○	
	○		○	○			予防・治療		11	ストロビーフロアブル	500ml	2000~3000倍	33~50ml	3回以内	○	○	○	○	薬害注意	
	○						予防・治療		11	メジャーフロアブル	250ml	2000倍	50ml	3回以内	○	○	○	○	薬害注意	
	○	○						SDHI剤	予防・治療	7	パレード20フロアブル	250ml	4000倍	25~50ml	3回以内	○	○	○	○	白さび病は2000~4000倍
	○						予防・治療		7	カナメフロアブル	125ml	4000~8000倍	12.5~25ml	3回以内	○	○	○	○		
	○						フルチアニル+メバニピリム	予防・治療	U13	ショウチノスケフロアブル	250ml	2000倍	50ml	2回以内	○	×	×	○	(ガッテン乳剤と同じ成分)	

☆ その他 薬剤	センチュウ類(ハガレセンチュウを除く)	ダソメット	8F	ガスタード微粒剤	10kg	土壌混和 要ガス抜き 20~30kg/10a	1回				
	ネグサレセンチュウ	クロールピクリン・D-D	8B	ソイリーン	15ℓ	土壌かん注 要ガス抜き 20~30ℓ/10a	1回				
	植物成長調整剤	矮化剤			ビーナイン顆粒水溶剤	100g	500~5000倍	生育期	4回以内	節間の伸長抑制	散布量:50~150ℓ/10a (切り花用・施設栽培)、
								発蕾期~摘蕾期	2回以内	花首の伸長抑制	
		ジベレリン		ジベレリン液剤	40ml	25~100ppm	生育期	2回以内	開花促進・草丈伸長促進	散布量:50~100ℓ/10a	
		エチレン		エスレル10	100ml	500~1000倍	摘心時または定植後1週間以内及び10~14日毎	3回以内	開花抑制	散布液量:2~10ml/株	
	除草剤	オーキシソ		オキシベロン液剤	500ml	2倍	10秒挿穂基部浸漬	1回	さし木の発根促進及び発生根数の増加		
		ベンズアミド		アグロマックス水和剤	300g	希釈倍数200~400g/10a		1回	定植後雑草発生前、散布液量100ℓ/10a		
	展着剤	ペンディメタリン		ゴーゴーサン乳剤	500ml	希釈倍数200~400ml/10a		1回	定植前(雑草発生前)、散布液量75~150ℓ/10a		
				アプローチBI	500ml	10ml/散布液10ℓ					
			ハイテンパワー	500ml	1~2ml/散布液10ℓ(5000~10000倍)						
			ワイドコート	500ml	1~3.3ml/散布液10ℓ(3000~10000倍)						

※農薬を混用する際の順番は、『展着剤 → 乳剤 → フロアブル → 水和剤』です。展着剤は必ず最初に添加して下さい。

※殺ダニ剤は、混用しないで単品で使用して下さい。

※農薬は、乾かないと効果を発揮しません！乾くような時間・環境での散布又は乾きやすくなる機能性展着剤の使用をお願いします。

薬剤の特性

○ 浸透移行性	: 処理した農薬の成分が根から葉へ、下位葉から上位葉に移行したりする性質
○ 浸達性	: 農薬の成分が葉の表面から裏面に移行する性質
○ 接触毒	: 農薬の成分に対象害虫が触れることにより効果を発揮する
○ 食毒	: 農薬の成分を対象害虫が摂食することで効果を発揮する

薬剤特性

○	効果がある。
△	効果はあるが、低い。
×	効果が無い。